

# 大学出版

2号  
'86秋



大学出版部協会

Association  
of  
Japanese University  
Presses

北海道大学図書刊行会  
Hokkaido University Press

慶應通信  
Keio Tsushin Co., Ltd.

産業能率大学出版部  
Sanno Institute of Business Administration

玉川大学出版部  
Tamagawa University Press

中央大学出版部  
Chuo University Press

東海大学出版会  
Tokai University Press

東京大学出版会  
University of Tokyo Press

東京電機大学出版局  
Tokyo Denki University Press

東京農業大学出版会  
Tokyo University of Agriculture Press

東京理科大学出版会  
Science University of Tokyo Press

法政大学出版局  
Hosei University Press

明星大学出版部  
Meisei University Press

早稲田大学出版部  
Waseda University Press

名古屋大学出版会  
The University of Nagoya Press

関西大学出版部  
Kansai University Press

九州大学出版会  
Kyusyu University Press

# 大学出版部協会の歩み

昭和38年(一九六三)6月11日 大学出版部協会設立

総会、東京大学出版会館にて。玉川大学出版部、中央大学出版部、東海大学出版会、東京大学出版会、東京電機大学出版局、東京農業大学出版会、法政大学出版局、日本学術振興会、日本図書文化協会(東京教育大学)、早稲田大学出版部、以上十校代表者により大学出版部協会設立総会を行なう。大学出版部協会初代幹事長 箕輪成男。

昭和45年(一九七〇)東京大学出版会、AAUP(アメリカ大学出版部協会) 国際会議加盟。

昭和46年(一九七二)11月26日 関西大学出版広報部協会加入。

昭和47年(一九七二)9月4日 北海道大学図書刊行会協会加入。

同年10月 協会としてはじめて目録共同発送行なう。以後年一回定期的に行なわれる。

同年10月10日(13日) 国際学術出版連合設立(トロント)。会長 箕輪成男(東京大学出版会)。

同年11月14日(20日) アジア太平洋地域大学出版部会議(国際図書年)を記念して(第一回)東京開催、主催 大学出版部協会。

同年11月14日(20日) アジア太平洋地域大学出版部刊行図書展示会開催。

昭和49年(一九七四)9月22日(28日) 第二回アジア太平洋地域大学出版部会議が韓国ソウルで開催される。

昭和51年(一九七六)5月26日 国際学術出版会(京都大会および国際学術出版連合第二回総会)を国立京都国際会議場にて開催。

同年9月1日 新幹事長中平千三郎(東京大学出版会)選出。九州大学出版会協会加入。

同年11月1日 玉川大学出版部・東海大学出版会、国際学術出版連合に加入。

昭和52年(一九七七)12月7日 東京電機大学出版局協会再入会。

昭和53年(一九七八)2月15日 協会をはじめ「大学出版部協会総会図書目録」一九七八年度版(合本)を刊行し、共同発送完了。

同年5月19日 東京大学出版会にて、大学出版部協会設立十五周年記念として、「協会設立十五周年・回顧と展望」座談会を行なう。

同年10月28日(11月14日) 大学出版部協会創立十五周年記念「大学出版部書展示即売会」を紀伊国屋書店PRルームにて開催。

同年12月12日 明星大学出版部の協会加入。

昭和54年(一九七九)8月24日 産業能率大学出版部協会加入。

昭和55年(一九八〇)7月8日 日本生命財団第一回出版助成の贈呈式と講演会が大阪・日本生命ビルで行なわれた。

同年12月4日 慶應通信の協会加入。

昭和56年(一九八一)8月21日 韓国大学出版部協会訪日団の歓迎レセプションを日本出版クラブにて行なう。

同年9月1日(15日) 中国にて「日本大学出版物展覧会」を中国図書進出口総公司の主催、

大学出版部協会の協賛により開催。昭和57年(一九八二)6月7日(19日) 韓国ソウル市にて、「世界大学出版図書展」。

同年9月1日 名古屋大学出版会の加入。

同年9月13日(25日) 「日米大学出版局刊行物展」が、丸善主催、日米両国の大学出版部協会の協賛により丸善本店で開催。

同年9月14日 日米大学出版部協会共催、丸善とアメリカンセンター後援により、「日米学術出版の状況と課題」と題して公開コンファレンスが行なわれた。

同年10月19日(25日) 韓国大学出版部協会の招請により協会代表団が訪韓。

昭和58年(一九八三)1月28日 「人文・社会科学系出版五団体合同新年会」に協会も本年より参加。

同年5月13日 大学出版部協会創立二〇周年記念講演会を新宿・紀伊国屋ホールにて開催。

同年9月21日 中国印刷調査団が訪日。

同年9月26日 韓国大学出版部協会訪日。

昭和59年(一九八四)10月 「韓日大学出版合同セミナー」のため協会代表団が訪韓。

昭和60年(一九八五)4月25日 新幹事長 石井和夫(東京大学出版会)選出。(株)東京理科大学出版会、(株)東京農業大学出版会協会加入。

同年5月 中国機械工業部一行訪日。

同年8月 中国出版工作者協会一行訪日。

同年9月5日(7日) 訪日韓国大学出版部協会一行と「大学教材開発」セミナー。

昭和61年(一九八六)9月 北京国際図書展へ大学出版部協会訪中代表団参加。

## 大学図書館と大学出版部

池田 敏之

（紀伊國屋書店営業総本部  
常務取締役・総本部長）

大学出版部協会が昭和三十八年発足以来、幾多の困難を乗り越え今日の業容までご発展されましたことを心よりお喜び申し上げます。特にここ数年の広報活動、販売促進活動は目覚ましいものがあり、全国の読者に大学出版部協会の名称と出版物が前向きに積極的にすすめられ、広く知られ始めたことは大変意義深いものがあり、この間のスタッフの方々のご努力ご熱意に改めて敬意を表する次第です。

従来各大学出版部におかれましては、個々の広報販売活動を行ってききましたが、協会名による総合図書目録の製作は利用価値が高く好評を博しております。更に全国各地での展示フェアを通じポテンシャルユーザーの開拓と広報によって一躍読者の関心を高め、大いにその知名度が急上昇したと思います。また今回は更に一歩前進されスタンディングオーダー方式による新刊書の定期納品が各大学図書館で反応が始め、既刊書を含み蔵書構成の一角を占める所

まで伸長されたことは画期的な転身と敬服しています。弊社としても目下微力ながら各大学へ販売促進し上智大学、中央学院大学、松山市立図書館等で成果をあげさせて頂いております。

弊社と大学出版部協会とは、昭和四十七年アジア太平洋地域大学出版部刊行図書展示会を紀伊國屋書店で開催され、諸外国大学出版物を一括販売させて頂き、これを契機に営業総本部の組織と活動をご理解頂いたことにより良き関係ができました。以来新刊情報のご提供や重点販売商品の量販、総合図書目録の配布等により恒常的販売をすすめてきました。昨秋は過去三年間の新刊書千余点についてキノモビルによる得意先への展示即売を行い、五七得意先を訪問しましたが、得意先の反応は極めてよく、ふだん接することの少ない専門書に関する潜在需要のありかたが改めて認識させられ、多大の成果をあげました。

大学図書館は全国で大学八九三館、短期大学三五〇館が存在し、年間和漢書の購入冊数は大学で三〇八万八〇〇〇冊、短期大学を含めると三六〇万三〇〇〇冊となります（「日本の図書館」一九八五年版）。一方大学出版部協会の年間刊行冊数は昭和五十九年五三九点、昭和六十年五五四点ですから、大学および短期大学図書館で一点ずつ購入すると一四三冊は購入されることとなります。大学出版部協会も我々もまだまだ努力が不足しており、今後は一段と良書の普及に工夫をこらし潜在需要の発掘と情報的確か迅速な提供に努力を要すると考えます。

一般に大学図書館の収書は、教官からの指定、学生から



の希望、書店からの現物見計らい、版元や書店からのカタログ選定等があり、図書館独自で収書方針と計画をたてて実施しているケースは少ないように見受けられます。あり余る予算を豊富に使用できる大学図書館は決して多くなく、時期と予算配分により一括収書のケースが多々見られます。その上既刊書の購入となると、各大学図書館は重複調査を行い、大変な時間と労力による蔵書との点検作業が伴います。今、大学図書館の電算化が進行しているので、この問題はいずれ時が解決してくれるものと思います。

新刊書の情報提供は、書店間の競争、新聞広告、ダイレ

クトメール等で迅速にすめられ、購入側も比較的安易に注文に達しますが、既刊書の普及は大変な作業を要します。従って大学出版部協会は総合図書目録の作成と併行し、全出版物の著者別または書名別の重複調査資料のような一覧表を作成し、館員の方々があるいは書店の営業の方々がチェックし易いリストを作成して頂くと大変便利にかつ短時間で作業が完了すると考えます。また、あわせて総合図書目録が各大学出版部別でなく一回の調査で判明するような目録の一本化をお願いしたい。各大学出版部の内部事情等があり、一朝一夕では実現できない問題を含んでいると思いますが是非実行頂きたいお願い致します。

最後に今後の出版物について以下の点を要望致します。

大学出版部協会の出版物のなかには発行部数、価格、内容よりみて時どき驚かされる出版物があります。また時には、情報が極端に遅く情報と現物が同時に流れてくるケースがあります。企画が先行し、出版されれば売れるという確信のもとに刊行されるのでしょうか、現状のマーケティングにもっと力を入れるべきでしょう。企画と営業が一体となつてこそ、成果は出るものであり、現場の動きを捉えている我々をもっとご利用いただき、よりよい刊行物の普及と広報に力を注いでいただきたいと思います。

種々勝手な意見を申しましたが、大学出版部協会が一丸となって日本の学術文化の向上のために更に広く深く日本の知識層に普及されますように心から祈っております。

弊社もこのためには全面的にご協力申し上げますので今後共よろしくお願い致します。

# 大学図書館と大学出版部を

## つなぐ担い手として

小林 英一

(丸善株式会社・取締役)

当社では一九八二年に「日米大学出版局刊行物展」を企画、アメリカから六七局、日本から一三出版部の参加を仰いだ。

中心はアメリカで、約八千タイトル、二万冊を集め、全国を巡回し、ほぼ完売した実績を有している。

さかのぼる一九七八年には、創立五百年を記念して「オックスフォード大学出版局展」を、一九八四年には創立四百年の伝統をもつ「ケンブリッジ大学出版局展」を開催した。

こうした一連の欧米の大学出版局紹介への傾注は、数百年にわたる出版活動を通し、大学と社会の架け橋としての役割を果たしてきた諸大学出版局に対する、我国の学術・文化の発展への寄与を創業以来社業の中心にしてきた当社なりのオマージュの表現であった。

と同時に、今なお大学出版局の出版活動が、厳密なレフ

リー制度を経て刊行される出版物の質によって、知識の向上と普及という出版文化の本来的な在りようを最も良く体現している、と考えたからでもある。

こうした実績を踏まえて、当社が有する洋書基本文献、新刊、在庫情報のデータベースと、毎月顧客に提供している洋書新刊案内に、大学出版局の出版情報が各分野にわたって重要な位置を占めていることはいままでもない。

我国に於ける専門書の売上不振は別掲の資料が示すように深刻だが、アメリカの数字をとった同じ号の PUBLISHERS WEEKLY は、大学出版局出版物総売上の成長率を、八二年から八五年の間で二〇・三%、八四年から八五年で六・一%をはじいた数字を掲載している。

大学出版部協会の「新刊全点の自動納品も一八の大学図書館で実施」されているが、「ここまで積極的に収書に乗り出す大学図書館はまだ少数」という最近の業界紙の報道は、私共の現場報告と一致している。

日本の大学出版部出版物の成長率は、推して知るべしというべきか。当社への期待を痛感せざるを得ない。

大学とその図書館、それらと当社の関係について、私共は常に次のことを忘れたことはない。日常の営業活動を通して、書店人としての人材育成の量り知れない大切な部分を、研究者やライブラリアンに負うているということ。

自分一個の経験に照しても、企画、選書、仕入の諸局面で、学術専門分野の深い奥行きの中で、ビジネスとしての決断に思い迷ったとき決って相談に駆けこむ某教授は「良きパートナーとしての書店人を教育するのは私たちの仕

区分	洋書 (アメリカ)				和書			
	全体		専門書		全体		専門書	
年号	金額	指数	金額	指数	金額	指数	金額	指数
1972	4,525	%	675	%				
1977	7,713	100	1,206	100	5,769	100	864	100
1982	11,766	152	2,163	179	7,031	121	1,040	120
1984	13,681	177	2,555	212	6,978	121	1,046	121
1985	14,817	192	2,732	226	7,122	123	1,068	124
JAN/MAR 1986	( 3,145)							
JAN/MAR	( 3,334)	106						

注：1.洋書は\$ =150円で換算 2.和書の専門書実売高は想定

3.出典 PUBLISHERS WEEKLY JULY 18,1986

4.社内研修用資料として作成

事」と、二十年來のうるさい来訪者に厭な顔をされたことがない。大学出版部の新刊自動配本という芽生えつつある販売手法を、全国津々浦々の図書館に拡げていく粘り強い、丹念な業務を引受けていくこと。とりわけ大学出版部と大学図書館をより太いパイプで結びつける担い手に私共がなること。そのことが大学とその図書館から有形無形に受けている恩恵に当社が報いる一つの道、一つの緊急課題であろう、と考えている。

## 大学出版部の

### 役割発揮に期待する

西垣内 義則

(全国大学生活協同組合連合会)

全国大学生活協同組合連合会(福武直会長理事・組合員八七万人)は、全国一四七大学にある生活協同組合で構成されています。一つひとつの生活協同組合は「消費生活協同組合法」にもとづいて事業・運営がなされ、「組合員である学生・教職員の大学内外での生活の安定と生活文化の向上に資する各種の事業」を営んでいます。

事業高は年間に約一二〇億円であり、そのうち、書籍・雑誌が二八四億円(定価)で他は、食堂、文房具、日用雑貨、オーディオ、家電、旅行事業などです。学生同士の助けあいである共済事業もおこなっています。

書籍店舗は全国あわせると二百ほどありますが、一店舗平均の面積は約二三坪と小さいのが現状です。従って、店の品揃えは学生・教員の利用する教科書・専門書類が多く、店に並べている商品の七〇%以上は専門書という典型的な「専門書店」になっています。ここが、市中の書店

との大きな違いです。ですから、供給高（売上高のことです）の分類構成においても、文庫・文芸書類が一三・四％、雑誌が一・四％と少なく、残りの七五・二％が教科書・専門書になっています。

このことは、大学出版部の役割発揮とはほぼ一致しています。

大学出版部は、大学の諸機能を出版を通じて社会に普及することの使命として次の四つを掲げています。

- (1) 大学のカリキュラムに即した講義テキスト、教授資料。
- (2) 研究開発の成果としての専門学術書。
- (3) 大学公開の趣旨にもとづく学術的啓蒙書。
- (4) 学生の人生の伴侶となりうるような教養書。

私たちの品揃え政策の柱だと似ています。もともと、最近では、学生も、生協店舗に、趣味関係の本、実用本なども要求してきてはいますが、相変わらず、生協でよく利用されているのは教科書・専門書です。

毎年、学生の本代のうち生協ではどの位使うのかを調べていますが、約六〇％強の比率になっています。分類別では、教科書が八十数％、専門書が六十数％、文芸書・文庫が四〇〜三〇％です。

従って、私どもとしては、教科書・専門書類を出版している出版社との関係強化に対して強い関心を持っています。

とくに、先生が使い易い、学生も学び易い教科書づくりをしてもらうことでは、そのノウハウを一番、蓄積し、出版に生かせる場にいる大学出版部に対し、強い期待があります。

ます。一点一点の教科書については、各大学出版部の個性が出るとは思いますが、教科書をめぐる環境問題、教科書づくりのノウハウ、教科書採用に向けた先生の方々へのアプローチ、授業における教科書活用の方法論など、ぜひ協会として集团的に研究し、また、私たちとも協同で研究することがあってもよいのではないかと考えます。

また、大学出版部が、「学術的価値が優れているにもかかわらず採算上刊行の機会を得がたい書物」の出版にもその努力をしていることは、「流石」という気持ちです。

実は私たちも、組合員「読者組織であるという利点をいかし、出版界においては、流通と消費という場にいるもの」として、最近、「専門書復刊事業」と「非流通本サービシステム」ということを行っています。

「専門書復刊事業」は、採算上の都合で品切になっている専門書を、生協が事前予約をつのり、一定部数の買い取りが可能になった復刊候補本を、出版社に重版してもらおうというものです。すでに四年連続して行っていますが、回を重ねるごとに、組合員、図書館から期待が強まっております。

「非流通本サービシステム」は、取次店が扱っている約四五〇〇社の出版社以外の版元の出版物の注文に対し、大学生協が独自に仕入部門を開設し、本を取り寄せるといったものです。現在、人文、社会系専門取次の鈴木書店内に「大学生協非流通本サービセンター」を置いて活動しています。すでに二年経ち、約二千社の出版物を扱ってきて

これらの仕事は、必ずしも儲からないのですが、大学出版部の出版理念同様、大学生協書籍事業の役割發揮の一つと位置づけて事業化しています。このように、それぞれのポジションにあった事業活動をやりあえるということも「大学の諸機能」を実現する努力の方向が一致しているからではないでしょうか。

また、出版物の普及活動において、大学出版部協会はめざましい活動をしていることに注目させられます。その典型の一つは七九年、中国で行いました「日本大学出版物展示会」です。文部省始め大学機関の後援を得て、七千五点到及ぶ図書、紀要、要覧、通信教育用教材などの展示を行う。この力はやはり「大学出版部協会ならでは」というものです。すなわち、各大学に蓄積された価値ある学術資料類を、社会と結びつける、世界と結びつける媒介になりうることを示しています。勿論、これを恒常化するためには、もう一ランク、ステップアップした政策が必要でしょうが、大変頼もしい限りです。それと、この間、活発化している新刊書納入制度です。これらの活動への信頼感が、大学図書館へのアンケート回収率九〇%という高水準になるのでしょうか、一つひとつの大学出版部ではなしえない大きな事業と活動の萌芽がはじめている様に思います。

これらの活動を通して、大学出版部協会が、連帯活動の中軸になっていくことが求められているのではないのでしょうか。それは、たかさんの大学出版部からなる協会が、専門書出版を社会にむかって、出版文化を国民にむかって、日本の文化を世界にむかって交流する中心軸として。

「ターヘル・アナトミアと

解體新書」出版の陰で

酒井 恒

(名古屋大学医学部解剖学第一講座教授)

本書は昭和六十一年三月三十一日、名古屋大学出版会（以下出版会）から出版された。この出版には、日本生命財団の昭和五十九年度出版助成金が大きな役割を果たした。すなわち、一、昭和六十年三月に財団法人になったばかりの出版会にとっては、本書の出版は余りにも大きな負担であったにもかかわらず、他の出版社が驚くほどの廉価で出版することができたことと、二、本助成金交付の決定により、筆者は、本書の脱稿を急がなければならなくなったことである。この年、筆者はドイツ連邦共和国に留学（四ヶ月）したので、年度内に本書を出版できる目処が立たず、しかも、本助成金の返上は許されず、一年間の延期が許された。そこで、筆者は、帰国後、本書の脱稿をすべに優先することになった。

本書の体裁の点で、本書を箱に納めることにしたのは、経験豊かな出版会の着想であり、その結果、本書の外観



は、内容にふさわしく、はなはだ重厚なものになった。

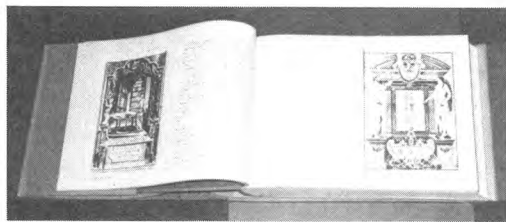
初め、筆者は、この翻訳文だけを文庫判か新書判で出版する予定であった。その後、「ターヘル・アナトミア」の原文を見る機会が皆無に等しい読者のために、この原文を巻末に添えることとし、更に、「解體新書」の読み下し文と原文をも巻末に添えることにしたが、それでは誰もが読みたくなくなることに気付いた。その時、出版会から変形A四判横長という提案があった。これで、「ターヘル・アナトミア」と「解體新書」の原文をも掲載するという筆者の意図が可能になった。ところが、原文を活字で組んだのでは、蘭文も漢文も、その誤植を避けることはできない。そのため、原典を写真版にして載せることを大島蘭三郎先生から許可していただいた。こうして、両原典の写真版を載せることができるようになったが、出版会の予定では、当該ページの隅に小さい写真版を載せることになり、単なる飾りでしかなかった。そこで、筆者の意図を強調し、協議の結果、出来上がりのように、対訳書としての体裁を整えることができ、筆者の意図したものが実現した。

「解體新書」の読み下し文は、既刊のものでは、小川鼎三、酒井シズ校注のものと、小川鼎三監修、大島蘭三郎校注の二編があり、他はそれらの転載である。筆者は、両者のうち何れかを転載させていただく予定にしていた。漢文は、読む人によって、その読み方が異なるのは当然であるが、吉雄永章の序文（白文）の読み方の一部が、両者の間ではなはだしく異なり、しかも、筆者は漢文の知識不足から、その何れが可であるかを判断できず、また、「解體新

書」の本文中でも、筆者の読み方と両者のそれとが、各所で異なることに気付いたので、それらの転載を断念し、筆者が自力で読み下すことにした。そこで、「ターヘル・アナトミア」のみならず「解體新書」をも自力で読む結果になってしまった。

原稿の最後の整理に追われていた本年二月二十八日、朝日新聞社の由本昌敏記者が、出版会の紹介で取材に来室された。取材の結果、同氏は、朝日新聞一社でスクープするには内容が余りにも重大であるので、出版会が本書の刊行報告会を開くことを助言され、それが五月六日に実現した。その結果、本書の完成が、同日夕から、テレビ、ラジオ、新聞により広く紹介されることになったのである。

本書の出版後、筆者は、日本翻訳出版文化賞があることを知り、出版会の熱意により、これに応募することになった。この賞は、その名も示すように、文科系の方々が受賞されるものと信じていたところ、はからずも十月六日、本書が第二十二回日本翻訳出版文化賞の対象に選ばれたことを知らされた。語学を最も不得手とする筆者にとっては青天の霹靂であった。理科系の受賞者はほとんどないとのことで、筆者はたいへんに名誉に思っている。



# 大学出版部協会訪中代表団報告

団長 高野 昭吉

(東京電機大学出版局)

秘書長 山下 正

(東京大学出版会)

去る九月五日から一日まで七日間にわたり、北京に於て、'86国際図書博覧会が開催された。フランクフルト・ブックフェアは毎年秋に開かれるが、アジア地区での国際的な催しとしてのブックフェアは初めてとあって、主催国の中国は勿論、同じ漢字圏である日本に於てもその成功に寄せる期待は大なるものがあつた。

総ブース三六一のうち、日本への割当は二三ブースで、わが協会はその中の一ブースをいちはやく確保した。協会員一六大学で一五〇点の書籍を選び、協会としては初の国際舞台への出展となつた訳である。

東販と東方書店主催になる同博覧会視察団が組織され、協会から東京電機大学出版局(高野昭吉)、産業能率大学出版部(小野沢公男)、東京大学出版会(山下正)の三名が視察団に参加した。同時に昨年秋季訪日した中国大学出版社と機械工業部(日本の通産省に当る)の面々と交流を持つ

ため、高野団長、小野沢副団長、山下秘書長という団構成で、一年ぶりの再会の機会を得た。

北京到着日の夕方、早速中国大学出版社(北京大学出版社長麻子英先生ほか六名)の歓迎レセプションがあり、席上、石井幹事長のメッセージを読みあげた。以下、メッセージの一部分をご紹介します。

## (前文省略)

大学の諸機能(研究・教育・啓蒙)を出版を通じて社会に反映させるべき大学出版社の活動は、それ自体、各国高等教育の関心の所在を明らかにする優れて文化的なものでありますから、当事者同士の交流は、必ずや民族独自の文化的価値に対する相互理解を促すにちがいないものであります。

一九八五年九月の貴大学出版社代表団の来訪は、私どもに大きな刺激を与えました。それは今日、日本の高等教育が高度技術社会の驚異的な発展によって、先端的知識の開発・普及と基礎的学問の継受と蓄積との両極の間を揺れていることと無縁ではありません。貴代表団が持参されたいくつかの古典文献の復刻は、五千年にわたる貴国の伝統文化の重視を示して大きく私どもの心情を動かしさえいたしました。或いは同じ漢字文化圏に属するものの郷愁を呼びましたと言つても宜しいのかもしれない。

その意味で、私どもは一衣帯水、わが国文化の源流ともいふべき貴国大学出版社との相互交流を、欧米のそれとは異なる意義をもって尊重して参りたいと存じております。

(後文省略)

招宴時の会談内容概略は次のとおりである。

一、中国大学出版社の組織は、現在、地域別に六つのグループに分けて活動しているが、全国の統一組織を準備中である。本日の中国側メンバーは全国統一組織の準備委員である。

二、教育委員会では、①学術レベル、②スタッフのレベル、③大学の歴史、④教育のレベルを基準に大学出版社の設立を許可しているが、ここ数年で急速に増加した。

三、中国大学出版社は二年前七〇〇余大学の中二十七社にすぎなかったが、今年は大学数一〇一六の中、六六社にのぼり、対大学数六％で、アメリカに追いついた。

北京最終日、団員は清華大学と北京大学を表敬訪問した。同日、機械工業部との会談では、①新刊交換、②中国出版物の日本での販売可能性、③組版・印刷の請負、合作等話を話合った。

なお、山下秘書長は博覧会ビジネスコースの副団長も兼ねていたので、博覧会最終日まで北京に在って、文字どおりビジネスに専念したが、以下はそのメモである。

会場には、世界三五ヵ国一〇四〇社の一九八五〜八六年に刊行された新刊書を中心に五万点が展示された。入場者は一日一万人に制限されたが、会期中に全国各地から十万人を超える人々が殺到した。日本のブースは大変な人気で、連日、書籍をとりまく人々の熱気に包まれた。

大学出版社協会ブースには、大学出版社や大手出版社の

首脳や編集者、図書館、各省・市の上級職員、大学・専門学校の先生、企業・研究所の技術者等々が来訪、展示書籍の購入検討をはじめ、専門分野の書籍の動向、今後の出版企画、展示書籍の内容、展示以外の類書の問い合せ、関連目録の請求などについて熱心な話し合いが行われた。

このようななかで、とくに目立ったのは、自然科学分野では科学技術に対する関心で、技術革新の観点から、理論と実際の両面にわたって、工学、物理学、建築等への問い合せが集中した。人文社会科学分野では、経営管理、行政・計画・人事管理、日本のビジネス・高度成長の秘密等への並々ならぬ関心が窺えた。

そして、今日の図書展で見逃すことのできないもう一つの点は、合作出版についての積極的な希望である。复旦大學、北京師範大学などの大学出版社はもちろん、中国社会科学出版社をはじめ十数社にのぼる出版社から、多くの具体的な企画の提案が示された（このなかには、日本書籍の翻訳出版も含まれる）。版權問題も含めて今後の課題といえよう。

最後に、中国の各大学出版社は、先にも触れたように、西南・西北・華東・東北・中南・北京の各地域ごとに共同で参加し、六つのブースに学術書、教科書等が展示されたことを付記しておきたい。

第二回北京国際図書博覧会は一九八八年に開催される予定である。

## 北海道大学図書刊行会

〔新刊案内〕

北海道民権史料集 永井秀夫編  
A5判・九二〇頁・八八〇〇円  
北海道の自由民権運動に関する、初の本格的基礎史料。植民地Ⅱ辺境という特殊条件のなかで開花した道民の言論・演説・政社組織などの諸活動を復元する。産業史・土地制度史に偏りがちだった研究動向を脱皮する

大学出版部ニュース

## 産業能率大学出版部

本年度よりスタートした大型の新企画、『サンノー・クオリティ・マネジメント・シリーズ』の第一弾として、3冊を8月に刊行した。本シリーズは、変動激しい環境下にある日本の産業界や、研究者の方々に、指針となり、真に役立つ理論と実践の書の提供』を目的として企画されたものである。第1巻

労作。

〔普及版〕北海道主要樹木図譜

宮部・工藤著／須崎画

B5版・一八八頁・四八〇〇円

一九八四年に完全覆刻された『北海道主要樹木図譜』の普及版。日本の落葉広葉樹林帯の主要樹木85種を一種一頁に収録。各種ごとに花または果実の付いた枝を中心に、花・果実の解剖図、葉・冬芽・種子等を細密に描写。

は、ミグリオワ著『戦略経営と目標管理』。第2巻は、バッファ著『アメリカの新生産戦略』。第3巻は、シュレイ著『ベストマネジメント』の3冊である。海外の良書の中から厳選した本シリーズは高い評価を得ている。また、事務能率のバイブルとされる『新訂事務能率ハンドブック』の完成、ビジネスマンに話題を呼んでいる『奇跡の英会話速修法』『円高・女時の経営』などが発売中である。

## 慶應通信

〔新刊紹介〕

日米開戦外交の研究―日米交渉からハル・ノートまで／須藤眞志著（京都産業大学外国語学部教授） A5判・上製函入・四二〇頁・定価三九〇〇円  
著者は、ハル・ノートの手交をもって終った開戦前一年間の「日米交渉」の失敗の要因を究明するにあたって、両国間のコ

## 玉川大学出版部

初等・中等教育に携る教師は、教員免許状の取得が必要である。しかし、高等教育関係者は、高度の専門知識は持っているが、教授技術は別段問われない。その教一五万人を超える。戦前のエリート教育と違い、大衆化した学生たちを相手に、教職関係の勉強をしたことのない教授たちは、何をよりどころ

ミニユニケーション・ギャップ（情報伝達の不足）とパーセプション・ギャップ（現状認識の相違）という仮説を提示し、米

国側の未発表のものを含む豊富な資料を駆使しながら、歴史を動かす力として、個人の役割を重視する著者は、客観的状況の分析の他に、両国の政策決定に影響を与えた人物たちの感情や思考にも注目しつつ、日米双方の立場から問題を取り扱い、実証してゆく。

として教授するのであるか。次の書は、効率的な教授法と現状、更に日本の高等教育の実状等、問われてしかるべき課題を究明、紹介した書であり、高等教育関係者の必読書である。

- 『大学教授法入門』
- 『大学教授法の実際』
- 『大学の教授・学習法』
- 『大学のカリキュラム』
- 『高等教育の日本的構造』
- 『大学教育の国際化』
- 『リースマン 高等教育論』

## 中央大学出版部

創立百周年を迎え二一世紀の大学づくりを目指す本学の一翼を担う小部では学問研究の真価を問う出版事業に意欲的な活動を進めている。この成果ともい

うべく、今回南亮三郎監修『人口論名著選集』全三巻が第21回造本装幀コンクール審査委員会奨励賞を受賞した。本づくりの技術促進と出版メディアの特性

## 大学出版部 ニュース

### 東京大学出版会

狙われる東大出版会 高価本ごっそり連続盗難 一月から五百冊/東大出版会また専門書盗難 カギ替えたのに/東大の書籍ドロ御用 五度目の侵入 高価本ばかり盗んだ五二歳男

小会の書籍盗難事件を扱った新聞の見出しを拾ったものである。日頃、お世話になっている

を再認し、造本装幀の役割を示す当賞の受賞は小部にとり栄光への徴しといえよう。以後新時代に向け、知的業績への躍進を

つづけ、識者の要望に応えることを希っている。

最新刊』『戦後世界経済史概説』土屋六郎著 定価二六〇〇円、『計画計量経済学』五井一雄監訳 定価五〇〇〇円、『評伝トマス・ペイン』小松春雄著 定価三二〇〇円、『階級・危機・国家』江川潤訳 定価二五〇〇円

### 東海大学出版会

この秋は話題の本が多く出版されました。柔道の山下泰裕初の書き下ろし『黒帯にかけた青春』

(気迫があふれ、すがすがしい) 読売新聞(柔道ひとすじの心境と勝負師・山下の別の面もえがかれる)報知新聞。それからデンマークのベストセラー作家ブラインホルストによる『われら北歐人』(ふんだんに使った愉

### 東京電機大学出版局

理工学講座のご紹介 ■ 本講座は、科学技術と教育を出版からサポートするため、大学理工学部の講義テキストとして編集したもので、最新の情報に基づき新しい理工学の視点から従来の教科書にはない新技術・新知識も解説した。また基本の理解に重点をおき、巻によつては正確さ、理解しやすさから2色

印刷している。最近の主な新聞は次のとおり。 ■電気通信概論 通信システム・ディジタル通信・ニューメディア 荒谷孝夫著・二二〇〇円 ■制御工学 技術の進歩に対応した最新版 深海登世司・藤巻忠雄監修・二八〇〇円 ■物理学 大判サイズで学びやすい一般教養テキスト 青野朋義監修・三二〇〇円 ■半導体工学 工学部学生の講義用に多くの図版で解説 深海登世司監修・近刊

快なイラストにあわせ、笑いの中からお国ぶりを理解しサンケイ新聞(辛辣な風刺効いた異色の北欧ガイド)信濃毎日新聞。

もう一つは、医師の立場から老いにメスを入れた『老いの構図』(老いを見つめ、人生の指針を検討し直すのに格好の書)北海道新聞(これから老いに向かう人にも読んでほしい、究極の人間学)マンズリーインデックス。そのほか『SIPRI年鑑'86』も'85に続き出版され好評。

## 東京農業大学出版会

■用と景・現代造園の視点  
カ  
ラービデオ

ハイテク時代だからこそ、古人に学ぶことが大事になる。茶庭のつくり方を誌した『露地聴書』に、飛石の打ち方の2説が紹介されている。「飛石は利休はわたり六分、景気を四分に居申候由、織部はわたり四分、景気六分に居申候、……」わたり

とは歩き易さの実用性、景気とは美しさの景観性のことで、利休と弟子の織部では用と景へのウェイトが異なる。何事も初期は実用性に比重があり、次第に文化的配慮が加わってゆく。ともあれ用と景のバランス。現代社会・環境づくりにも、このバランス感覚が乏しい。この映画は「現代の用と景」を「PAGES」の5つの視点で解釈し、これらの「水と緑の街づくり像」を具体的にえがいている。

## 法政大学出版局

坂井洲二著『年貢を納めていた人々』(定価二五〇〇円)へ人間の生活は実に具体的なものであり、その具体例をくわしく知ってはじめて、正確な類推も可能になる」と著者はいう。そして選ばれたのが、ドイツはチュービンゲンとそれをとりまくいくつかの農村。鎖国時代、日本の農民は生産した米の四割から五

割を、年貢として領主に徴収されていた。……同じころ、ドイツの農民たちの年貢率も約四割。当時の経済を支えた彼ら農民たちの日常―糞尿のことから農法、衣食住からそれぞれの材料。家族や私生活のこと、……教会の役割や共同体としての地域のあり方。その遺産目録から食事のメニューまで、とにかく具体的であって、数多い図版や表とともに興味が尽きない。  
'86・10/下『出版ニュース』誌評

## 東京理科大学出版会

科学教養雑誌

BULLETIN **SUT**

本誌は、科学の新知見・新技術が人間性の高揚、人類の繁栄にどのようになかされるべきかを常に問いかけ、誰にも楽しく科学知識がえられるように平易な文章で綴り、さらに

高度なインフォメーションであることをモットーに編集しております。毎号特集を中心に企画しています。

61年度

地底からの情報(10月)

眼―その細胞と分子(11月)

病気と診断(12月)

62年度

光と生活(1月)

新しい経営のトピックス(2月)

ホルモンの営み(3月)

## 明星大学出版部

小出版部では、新シリーズ「図書館学講座」を企画、第1巻『図書館と情報』(男沢淳著)を発刊している。

戦後、図書館を巡る状況の中で、その利用のされ方、つまり利用者の面で刮目すべき大きな変化が見られ、主婦や学生、生徒、児童たちの生活の中に図書館が位置づけられている。また

記録、検索等の面でも格段の向上がはかられているが、図書館の基本的姿勢、役割には不変のものがある。

本書では図書館の持つ意味、機能、現状をおさえ、独自の自由性、当面する法改正の問題について論及。さらに全ての図書館に共通する基礎としての図書館学成立の根拠を追及し、なぜ「情報」という言葉が図書館学の中にはいつてきたのか、基本的構想の描写を試みる。

## 早稲田大学出版部

小部は、明治一九年に早稲田大学の前身、東京専門学校の講義を通信による形で発行しはじめてから、本年一〇月二一日をもって創業百年を迎えた。この大きな節目に『早稲田大学出版部一〇〇年小史』を刊行し、小冊子ではあるが、そのあゆみをたどる機会をえたことは願つてもないよろこびである。

## 大学出版部ニュース

### 関西大学出版部

●新刊紹介 本浪章市著、英米国際私法判例の研究『国際私法序論』。本書は同著者の既刊書英米国際私法判例の研究『国際身分法序説』同『国際租税法序説』に続く三部作目である。米抵触法革命の黎明を告げたバブコック前後の諸判例を概観しつつ、不法行為の準拠法決定に透徹した分析を加え、国際法と

百年の歴史は、小部の発足に深くかかわり事実上の主宰者だった早大第三代総長高田早苗が引退する昭和八年までを第一期、出版事業の主力である講義録を廃刊する昭和三年までを第二期、刊後を第三期としよう。なかでも第一期の、高田、坪内逍遙、市島謙吉(春城)のトロイカ体制による経営時代は波乱に富み、早稲田大学外史としても面白い。

国際私法の交錯等を取上げて、異次元の法規の適用問題を追求し、さらに管轄権と承認基準の關係につき独自の思索を展開。

●記念論文集の刊行 関西大学は本年十一月に創立百周年を迎え、記念行事の一環に各学部、学会、研究所などから九種類の「創立百周年記念論文集」を刊行する。頒布は、大学および各機関の計画に基づいて行なわれるが、法学部の「記念論文集」は市販も予定されている。

## 名古屋大学出版会

今春、第六回日本生命財団刊行助成図書として『ターヘル・アナトミアと解體新書』を出版した。当初の予想を上回る反響を呼び、改めて設立間もない小会の一大事業であったことを思い知らされた。同書は本年度の日本翻訳出版文化賞の受賞も決まり、問合せ・注文も増えているが、現在品切中であり、年内

### 九州大学出版会

▼水波朗責任編集による『法と国家』翻訳叢書の刊行開始。R・ドラテ『ルソーとその時代の政治学』、D・ワルド『行政国家』、以下続刊。「世界観の多元化が語り始められて久しい。しかしわが国において世界観は真に多元化されているであろうか」(創刊の辞より)。▼九州大学法学部をこの春に退官され、

に重版予定だが読者・書店の皆様には迷惑をおかけしている。昨年刊行の、南山大学文学部

森田マリー・アニエス助教授の著書『一九四五年以降の仏小説におけるドイツ像』(仏語)が、フランス語学文庫のアカデミー・フランセーズ文学賞(銅賞)を受賞した。権威と伝統のある賞だけに、フランス語で出版した小会にとっても榮譽と考えられている。地味な学術出版ながら、こうした話題は提供してゆきたい。

また学術書出版に情熱を傾けられて十年に及んだ九州大学出版会理事長の職を退かれた水波朗教授の二大論文集『トマス主義の憲法学——国法学論文選』、『トマス主義の法哲学——法哲学論文選』もまた近く刊行する。『新カント学派は、遅くも一九三〇年代には、哲学としては死滅した。——このことはわが国の法律学界にあっては、今日ことさらに強調されねばならない』(『憲法学』序論より)。

## 『早稲田大学出版部一〇〇年小史』

林 邦夫  
(ジャーナリスト)

本文百三十五頁、目録など五十四頁という文字どおりの「小史」である。が、ここに盛られているものは重い。大学出版部協会に加盟する十六大学出版部のうちでもその歴史を誇る早稲田大学出版部百年の道程は、そのまま日本の大学出版部のあり方、課題への先駆的な苦渋の歴史であるからだ。この小史から今日の問題を学ぶ読者も多いに違いない。

早稲田大学出版部の前身、東京専門学校出版局が誕生したのは一八八六（明治十九）年である。同校の講義を通信教育による講義録の形で発行したのがはじまりである。それからの百年を小史は三期に分けている。(1)出版部の発足に深くかわり、事実上の主宰者だった高田早苗が引退する一九三三（昭和八）年二月まで、(2)出版事業の主力である講義録の刊行を停止する一九五八（昭和三十三年）三月まで、(3)以後、現在まで、である。

別のいい方をすれば(1)は高田を中心にした「高田人脈」ともいえる人々の演じたドラマの時代、(2)は戦争という巨大な波と戦後の変革の嵐にもみくちゃにされた時代、(3)は大学出版部という独自の灯を守ってきた期間、ともいえるという（あとがき）。

が、早稲田大学出版部からはなんといつても講義録を切り離すことはできない。第一期から第二期を通じての七十二年間の校外生（講義録購読者）数は二百数十万人、多くの人材を世に送り出した。塩沢昌貞、津田左右吉、西村真次ら早大の教授に迎えられた人も少なくない。その功績は大きいだろう。小史でも「講義録を購読した人びと」の一章をとくに設けているほどだ。

もちろん大学と大学出版部がいつも「蜜月」でありうるはずはない。「東京専門学校直営時代」「出版部の大学からの分離」「匿名組合から株式会社へ」と章が進むにつれ、大学出版部も委託、直営、匿名組合、株式会社と経営形態を変え、浮沈をくり返してきたこともわかるが、「騒動」では名にし負う早稲田大学だけに出版部のあり方もとかく論議の的になる。その意味では「早稲田大学外史」の側面もこの小史は持っている。一章がさかれている「種村宗八私記——早稲田大学出版部の沿革と大学との関係」がそのあたりを伝えてくれる。

こんな一期、二期にくらべるとユニバンティープレスに徹している現在の三期は分量的にも内容的にもやや薄さを感じさせるのが残念だ。同時代という書きにくさもある。たしかに出版目録を見ればその活動ぶりはひと目でわかるが、歴史を語るにはやはりもっと人間くさい「肉付け」も欲しいものだ。いずれ「正史」もつづられるのを期待したい。

「教育をひろく学外に普及させる」——日本で初の通信教育用テキストといわれた講義録の精神はそのまま大学出版部の基本理念である。さらに次の百年への歩みを祈りたいものだ。

（早稲田大学出版部刊、定価一〇〇〇円）



# 新刊案内 '86 · 4 / 9

加盟十六大学出版部の刊行書籍全点を四月から九月まで刊行順に掲載しました。  
選書資料としてご利用いただければ幸いです。

## 北海道大学図書刊行会

日本における作業療法教育の歴史

エゾシロチョウ

時は流れて

北大歴史散歩

北海道民権史料集

地質あんない 空知の自然を歩く

近代ロシアの歴史と文学

情報化社会に生きる

慶應通信

財務管理

ケインズ研究

北里柴三郎

初学者のためのマクロ経済学

患者の心理

教育心理学

詩、場所なるもの

明治刑法史の研究(下)

日常生活とコミュニケーション

土地の社会史

立憲思想

ジェヴォンズ評伝

鈴木 明子 四〇〇〇円

朝比奈英三 一四〇〇円

今村 成和 一四〇〇円

岩沢 建藏 一四〇〇円

永井秀夫編 八八〇〇円

岩見沢地学懇話会編 一四〇〇円

北大放送教育委員会編 一六〇〇円

北大放送教育委員会編 一六〇〇円

鈴木 貞彦 三〇〇〇円

J・フェンダー 二〇〇〇円

長木 大三 一八〇〇円

浜田 文雅 一六〇〇円

関 計夫 一六〇〇円

斎藤幸一郎 一三〇〇円

小浜 俊郎 七〇〇〇円

手塚 豊 六〇〇〇円

山岸健ほか 三六〇〇円

ハバカク／高橋裕一 二二〇〇円

驚見誠一 二〇〇〇円

ティアニー 一八〇〇円

丸山徹ほか 一八〇〇円

日本古代法制史

投票行動と政治意識

競争時代の保険・共済

産業能率大学出版部

企画力強化書

人生は今日が始まり

自己改造

発想法のすべて

格言と大衆常識

ハイテク時代の事務戦略

問題解決力

新・C I戦略

奇跡の英会話速修法 F・N・ポリツァ

もっとていねいに売ちなさい

上野陽一と経営学のバイオニア

ビジネス能力チェックリスト

先端技術商品化シナリオ

戦略経営と目標管理 R・H・ミグリオーワ

アメリカの新生産戦略 E・バツファ

ベストマネジメント E・C・シュレイ

出会いの研究

パーフェクトマネジャー

ウィリアム・C・ワッデル

利光三津夫 一七〇〇円

堀江湛・梅村光弘編 二八〇〇円

庭田 範秋 二四〇〇円

丸の内企画人 一二〇〇円

田中 真澄 一三〇〇円

上里 剛士 一二〇〇円

中山 正和 三〇〇〇円

野田 信夫 一五〇〇円

坂井 尚 一三〇〇円

高岡 正 一三〇〇円

山田 理英 一五〇〇円

柿内幸夫共著 一三〇〇円

国司 義彦 一三〇〇円

斎藤 毅憲 非売品

川勝 久 一三〇〇円

水野 恵司 一五〇〇円

R・H・ミグリオーワ／小林薫 四五〇〇円

E・バツファ／山之内昭夫 三五〇〇円

E・C・シュレイ／上野一郎 四〇〇〇円

中川 昌彦 一三〇〇円

ウィリアム・C・ワッデル 三八〇〇円

部下指導の要点 山田 博夫 一三〇〇円

玉川大学出版部 人間学・教育学 I・カント／三井善止訳 四五〇〇円

教育原理 倉岡正雄ほか 二四〇〇円

道徳教育の研究 島田四郎ほか 二四〇〇円

教育の方法と技術 沼野一男ほか 二四〇〇円

教育行政と学校・教師 高橋靖直ほか 二四〇〇円

西洋教育史 東岸克好ほか 二四〇〇円

剣道はこう学べ 井上 正孝 一八〇〇円

シニクスピア劇場 J・トレウイン／島川聖一郎訳 三五〇〇円

芸術と装飾 山本正男監修 三八〇〇円

美学講義 K・W・F・ゾルガー／西村清和訳 四八〇〇円

子どもと本 N・タッカー／定松正訳 二八〇〇円

大学の学生指導―成長モデルの理論と実践― ニュートン&エンダー編／岡国臣・中川米造監訳 二八〇〇円

教育学研究の軌跡 皇 至道 三〇〇〇円

ベストロッチ―とその時代 村井 実 三二〇〇円

社会学の数学モデル 寺本英ほか 三〇〇〇円

海洋立国をめざして 松前 仰 一五〇〇円

ロマンの音楽 R・ロニアー 四〇〇〇円

西洋美術の歩み 岡本 重温 三〇〇〇円

銅鐸関係資料集成 田中 巽 二二〇〇円

プトレマイオス地理学 中務哲郎訳 二五〇〇円

マークテイティング・エッセンシャルズ P・コトラ 六三〇〇円

顔色から診る肝臓病 岩村健一郎 一二〇〇円

FORTRAN77 応用 穴吹雅敏ほか 二八〇〇円

繁殖戦略と数理モデル 山村 則男 一八〇〇円

日本の昆虫地理学 木元新作編 二八〇〇円

私の民間外交二十年 松前 重義 三〇〇〇円

パンロン BASIC 心理学実験 野沢 晨 三二〇〇円

海岸動物 益田一ほか 二五〇〇円

フィッシュ・ウォッチング 林公義ほか 二〇〇〇円

16

新刊案内

中央大学出版部

社会政策理論の根本問題 第二巻 矢島悦太郎 五〇〇〇円

五・四運動史像の再検討 中央大学人文科学研究編 四五〇〇円

法律家を目指す諸君へ 中央大学法職講座運営委員会編 一〇〇〇円

読書聞話考 林 達 一六〇〇円

東海大学出版会 A Lion Aroused 坂本 守 六〇〇〇円

社会学の数学モデル 寺本英ほか 三〇〇〇円

海洋立国をめざして 松前 仰 一五〇〇円

ロマンの音楽 R・ロニアー 四〇〇〇円

西洋美術の歩み 岡本 重温 三〇〇〇円

銅鐸関係資料集成 田中 巽 二二〇〇円

プトレマイオス地理学 中務哲郎訳 二五〇〇円

マークテイティング・エッセンシャルズ P・コトラ 六三〇〇円

岩村健一郎 一二〇〇円

穴吹雅敏ほか 二八〇〇円

山村 則男 一八〇〇円

木元新作編 二八〇〇円

松前 重義 三〇〇〇円

野沢 晨 三二〇〇円

益田一ほか 二五〇〇円

林公義ほか 二〇〇〇円

山岸 哲 一八〇〇円

斎藤 正男 二八〇〇円

中川 治平 三五〇〇円

安田 齊 一二〇〇円

馬淵 久夫 一四〇〇円

任 美 鏗 三八〇〇円

日向野幹也 一五〇〇円

山口 和雄 六八〇〇円

兵藤 申一 三六〇〇円

東京大学 八〇〇〇円

中川敬一郎 四五〇〇円

通史三

イギリス経営史

科学英文技法

近代日本の商品流通

金融機関の審査能力

中国の自然地理

統考古学のための化学10章

東京大学出版会

改訂版 花の色の謎

デジタル画像処理

レンズ設計工学

社会保障研究の課題	社会保障研究所	三六〇〇円	日本人と政治	京極 純一	一二〇〇円
交通・運輸の発達と技術革新	山本 弘文	三八〇〇円	知るといふこと—認識学序説—	渡辺 慧	一八〇〇円
セラミック材料	水田 進	二八〇〇円	教育リーディングス日本の社会学16	柴野昌山ほか	二五〇〇円
文部省日誌 12	日本史籍協会	八〇〇〇円	日本の近代小説 I—作品論の現在—	三好行雄編	二四〇〇円
貴族院委員会速記録 7	貴族院事務局	八〇〇〇円	日本の近代小説 II—作品論の現在—	三好行雄編	二六〇〇円
衆議院委員会議事録 7	衆議院事務局	七〇〇〇円	明治維新	永井道雄/M・ウルティア編	一六〇〇円
枢密院会議事録 27	国立公文書館	九〇〇〇円	東南アジア歴史散歩	永積 昭	一五〇〇円
Prehistoric Hunter-Gatherers in Japan	赤澤威ほか編	一〇〇〇〇円	日本の金融システム	貝塚啓明・小野英祐編	二七〇〇円
The Tokyuwa Batholith, Central Japan	清水 正明	七五〇〇円	イギリス社会政策史	大沢 真理	五四〇〇円
東大の内と外	平野 龍一	二〇〇〇円	現代日本の財政金融 III	武田隆夫・林健久編	四八〇〇円
歴史を学ぶことと教えること	北島万次ほか	二〇〇〇円	文部省日誌 14	日本史籍協会	八〇〇〇円
百姓申状と起請文の世界	入間田宣夫	四五〇〇円	貴族院委員会速記録 9	貴族院事務局	九〇〇〇円
現代国際私法 上	石黒 一憲	七八〇〇円	衆議院委員会議事録 9	衆議院事務局	七〇〇〇円
農村リーディングス 日本の社会学6	中田実ほか	二五〇〇円	枢密院会議事録 29	国立公文書館	九〇〇〇円
災害と情報	東大新聞研	五六〇〇円	夢と人間	木村尚三郎	一九〇〇円
東京大学百年史 資料三	東京大学	八〇〇〇円	コミュニティ心理学	山本 和郎	二八〇〇円
大日本史料 第八編之三十三	東大史料編	七六〇〇円	対日講和と冷戦—戦後日米関係の形成—	五十嵐武士	三八〇〇円
大日本古文書 家わけ醍醐寺文書別集二	東大史料編	四二〇〇円	経営戦略とイノベーション	石井威望編	一六〇〇円
大日本近世史料 市中取縮類集十七	東大史料編	六六〇〇円	米流通システム—流通としての食管制度—	佐伯 尚美	三八〇〇円
文部省日誌 13	日本史籍協会	八〇〇〇円	地球科学への招待	浜田 隆士	二〇〇〇円
貴族院委員会速記録 8	貴族院事務局	八〇〇〇円	脳の生体警告系	高木博司・大村裕・伊藤正男編	三八〇〇円
衆議院委員会議事録 8	衆議院事務局	七〇〇〇円	近代日本法制史料集 第八	国学院大日本文化研究所編	五〇〇〇円
枢密院会議事録 28	国立公文書館	九〇〇〇円	文部省日誌 15	日本史籍協会	八〇〇〇円
Financial Innovation and Monetary Policy: Asia and the West	鈴木淑夫ほか	五〇〇〇円	貴族院委員会速記録 10	貴族院事務局	九〇〇〇円
The Era of High-speed Growth	香西 泰	三八〇〇円	衆議院委員会議事録 10	衆議院事務局	九〇〇〇円
高度技術社会と人の生き方	代表 森亘	一八〇〇円	枢密院会議事録 30	国立公文書館	九〇〇〇円

伝統家族 リーディングス日本の社会学3

光吉利之ほか

土屋 俊

有賀弘・佐々木毅編

広瀬弘忠編

磯田浩・鈴木賢次郎

二五〇〇円

一八〇〇円

四八〇〇円

二二〇〇円

二九〇〇円

九八〇〇円

六〇〇〇円

六〇〇〇円

七〇〇〇円

五八〇〇円

七二〇〇円

四八〇〇円

八〇〇〇円

九〇〇〇円

七〇〇〇円

九〇〇〇円

二八〇〇円

一八〇〇円

三三〇〇円

一八〇〇円

二八〇〇円

一六〇〇円

一四〇〇円

五八〇〇円

光彩と暗塊の人間構造

バイオメカニズム8

都市圏多核化の展開

Ikkyu and the Crazy Cloud Anthology

文部省日誌 17

貴族院委員会速記録 12

衆議院委員会速記録 12

枢密院会議事録 32

東京電機大学出版局

どこが改正されたか図解電気設備技術基準

電動力応用・自動制御(新電験シリーズ)

入門テレビ放送装置 1

わかりやすい上水道と給水装置

完全マスター高周波・発振・変調・復調

図解マイコン インタフェースの基礎

入門テレビ放送装置 2

61年秋季版最新5年(57~61春)第2種情報処理試験全問題解答集

電気回路のための数学と例解

改訂版 空中線系および電波伝搬

図解NC工作機械の入門

早わかり電気工事士受験テキスト

東京農業大学出版会

松橋 俊夫

バイオメカニズム学会編

田口芳明・成田孝三編

Sonia Arntzen 訳

日本史籍協会

貴族院事務局

衆議院事務局

国立公文書館

末広恵雄ほか

東京電大出版局編

荒木庸夫ほか

榮森康治郎

菊池憲太郎

五島泰文ほか

荒木庸夫ほか

東京電機大学出版局編

斉藤嘉博ほか

戸泉 朗

山岸 正謙

渡辺敏章ほか

三二〇〇円

一八〇〇〇円

三〇〇〇円

三八〇〇円

八〇〇〇円

九〇〇〇円

九〇〇〇円

二二〇〇円

二二〇〇円

二二〇〇円

二二〇〇円

二二〇〇円

二二〇〇円

二二〇〇円

二二〇〇円

二二〇〇円

二二〇〇円

二二〇〇円

東京理科大学出版会

法政大学出版局

インド民衆の文化誌

ミケランジェロ

資本論体系成立史 W・シュヴァルツ/時永・大山訳

日本海上交通史の研究 北見 俊夫

哲学36号 特集—ものと私たち— 日本哲学会編

鎖国日本にきた「康熙図」の地理学史的的研究

領野の漂流

キツチュの心理学

日本芸能史5—近世—

記号を読む旅—ドイツ中世文化紀行—

鮎(あゆ)

国家の起源と伝承

ベルナル師匠の秘密 P・ガスカール/佐藤和生訳

ジラールと悪の問題

ドゥギー&デュビュイ編/古田幸男ほか訳

世界社会の構造と動態 庄司興吉編

シングル・レンズ B・J・フォード/伊藤智夫訳

ジェノサイド L・クーパー/高尾利数訳

叙事詩 アメリカに落ちた爆弾 ハゲドーン/入江訳

神の存在論的証明 D・ヘンリッヒ/本間謙二ほか訳

特別な人 ユージン・オニール作/黒川欣映監修

真理と方法 I H・G・ガダマー/齋田収ほか訳

クローチエ政治哲学論集 上村忠男編訳・解説

年貢を納めていた人々—西洋近世農民の暮し—

くらしの風土記—岩手に生きる道具たち—

アンチ・エコミクス

アタリ&ギョーム/斉藤・安孫子訳

朝鮮古代の経済と社会—村落・土地制度史研究—

明治啓蒙期の経済思想—福沢諭吉を中心に—

禅の心理学—悟りの構造—

明星大学出版部

ザックス謝肉祭劇選

行列および行列表

図書館と情報

早稲田大学出版部

蜻蛉日記

アスリートよ永遠なれ

法学入門

辛亥革命

新版現代テレビ放送学

社会学と教育

婦納的確率と様相の論理

土佐日記—訳注と評論—

近代形而上学の神

坂井 洲二 二五〇〇円

高橋 九一 二〇〇〇円

安孫子 三四〇〇円

浜中 昇 八〇〇〇円

杉山 忠平 二七〇〇円

秋重 義治 一四〇〇円

藤代 幸一ほか訳 二〇〇〇円

小野英夫ほか 一七〇〇円

男沢 淳 一七〇〇円

今井卓爾 一二〇〇〇円

青木 半治 一三〇〇円

大沢正男ほか 二〇〇〇円

安藤彦太郎編訳 一五〇〇円

渡辺みどり 一四〇〇円

福永 安祥 三〇〇〇円

永井成男ほか 二八〇〇円

今井 卓爾 三八〇〇円

W・シュルツ/岩波哲男訳 一五〇〇円

サイバネティクスの政治理論

K・ドイッチュ／佐藤敬三ほか訳 三七〇〇円  
日本入門―日本とアジア―(上)・(中)・(下)

早稲田大学アジア交流委員会編 各一三〇〇円  
劇場―建築・文化史― テイドワース／白川・石川訳 四三〇〇円  
早稲田大学蔵資料影印叢書一五 古文書集二

早稲田大学蔵資料影印叢書刊行会編 一五〇〇〇円  
演劇年報 一九八六年版 早稲田大学演劇博物館 三〇〇〇円  
紫式部日記―訳注と評論― 今井 卓爾 五〇〇〇円

更級日記―訳注と評論― 今井 卓爾 四五〇〇円  
ラグビー賛歌 日比野 弘 四五〇〇円  
建築空間論―その美学的考察― 上松 佑二 三二〇〇円

讃岐典侍日記―訳注と評論― 今井 卓爾 四二〇〇円  
和泉式部日記―訳注と評論― 今井 卓爾 三八〇〇円  
早稲田大学蔵資料影印叢書九 浮世草子集

早稲田大学蔵資料影印叢書刊行会編 一五〇〇〇円

名古屋大学出版会

ME化の現状と雇用問題

水野正一ほか 三二〇〇円

ターヘル・アナトミアと解体新書 酒井恒訳編 三〇〇〇〇円  
ジョン・ロックの政治思想 友岡 敏明 四五〇〇円  
形の心理学 横瀬 善正 二二〇〇円  
現代アジア移民 重松伸司編著 二九〇〇円

関西大学出版部

英米国際私法判例の研究 国際私法序論 本浪 章市 九四〇〇円

九州大学出版会

地域経済システムの研究

北原貞輔ほか編 二八〇〇円

日本選挙制度史 榎 正夫 三〇〇〇円

民法雑考 安田 幹太 二五〇〇円

航空計器入門 (第二版) 秀嶋 卓 三五〇〇円

デュレイの習慣論 谷口 忠頭 五五〇〇円

西洋倫理思想史(下) 井上義彦ほか訳 二〇〇〇円

斜張橋の設計と施工 W・ポドルニー 五〇〇〇円

写真集 九州大学史―一九一一―一九八六― 九州大学 四五〇〇円

人間とは何か 九州大学公開講座委員会編 一六〇〇円

ルソーとその時代の政治学 R・ドラテ／西嶋法友訳 六八〇〇円

Studies on the Oceanic Ichthyoplankton in the Western North Pacific 小沢貴和編 一〇〇〇〇円

寸感集―わが大学・病院・家― 柳瀬敏幸 実費頒価三〇〇〇円

日本はどうなる―混迷からの出発― 一六〇〇円

水を考える 一八〇〇円

日本生命財団の出版助成図書 受賞のお知らせ

日刊工業新聞技術・科学図書文化賞(昭和六十一年度)

笠原順三・田中一美共著『見る地震―コンピュータ・グラフィックスによる日本の地震』一九八六年 東京大学出版会  
岡田賞(昭和六十一年度 日本気象協会)

『日本被書津波総覧』(一九八五年、東京大学出版会)の渡辺偉夫先生の「津波予報技術の向上に尽した功績」に対して  
日本翻訳出版文化賞(第二十二回)

ヨハン・アダム・クルス著、小川鼎三監修、酒井恒訳『ターヘル・アナトミアと解体新書』一九八六年 名古屋大学出版会

# ●あとがき——目次にかえて

「大学出版」の第2号をお届けする。

大学出版部協会は、国立・私立の全国の大学出版部によって構成されている。各出版部の組織形態も規模も大いに異なるが、大学出版部運動を充実しさらに発展させようという意図の下、協力団結している。その運動の広報活動の柱としてこの小冊子ができている。

第1号は一万部余作成し、次の団体等へ配布させていただいた。国公私立大学、短期大学の代表者、国公立図書館、大学生協、取次各社、取次協会、紀伊國屋書店、丸善、中国大学出版部協会、韓国大学出版部協会、マスコミ・テレビ、日書連、日本書籍出版協会、電通、私大連等関連新聞、業界紙、世界の図書館大会、北京の国際図書博覧会、日本の本展等であった。残念ながら一般読者の方々への配布の機会はまだまだ少ない。

第1号には、読者の方々から様々の反応をいただいた。いずれご期待に応えられる小冊子に



なるよう努力したい。第2号は、編集スタイルを少し変え、読める記事を多くした。

紀伊國屋書店、池田敏之常務の「大学図書館と大学出版部」、丸善、小林英一取締役の「大学図書館と大学出版部をつなぐ担い手として」。お二人とも多忙のなかご無理をお願いした。協会の「大学出版部運動」の中で果された両社の存在意義は重く、改めて深謝したい。

今夏、東海大学嬉志高原研修センターで行なわれた協会の夏期研修会には、大学生協連の西垣内義則氏を講師としてお招きした。テーマは「大学生の勉学・読書生活と大学生協の書籍事業について」であったが、その講演要旨の結論として「大学出版部の役割発揮に期待する」という熱いメッセージを戴いた。

刊行助成部会の主務である日本生命財団出版助成の成果報告として話題を呼んだ、名古屋大学の酒井恒教授に「ターヘル・アナトミアと解體新書」出版の陰で」というテーマで学術出版の楽屋話を披露していただいた。

評論家の林邦夫氏には、「早稲田大学一〇〇年小史」の書評をいただいた。大学出版部の存在意義を改めて問い直すこの小史に、長年協会活動を見守っていただいたジャーナリストの暖かい眼が光っている。

北京での国際図書博覧会には、大学出版部協会として訪中団を組織し参加した。一衣帯水の文化圏、中国での報告も、協会の国際活動の一環としてお読みいただければありがたい。

(編集部会担当幹事 関野利之)

●大学出版部協会役員(一九八六年二月一〇日現在)  
幹事長 石井 和夫 (東京大学出版会)

幹事(総務担当) 高野 昭吉 (東京電機大学出版会)

〇三二一九四―一五五―  
〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―

〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―

〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―

〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―

〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―

〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―

〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―

〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―

〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―

〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―

〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―

〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―

〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―

〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―

〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―  
〇三二五六一―一五四―

# 大学出版部協会加盟出版部一覽

北海道大学図書刊行会	〒060 札幌市北区北8条西8丁目 クラーク会館 TEL.011-747-2308
慶應通信	〒108 東京都港区三田2-19-30 TEL.03-451-3584
産業能率大学出版部	〒152 東京都目黒区自由が丘2-16-5 自由が丘サンビル4F TEL.03-724-9101 FAX.03-714-4346
玉川大学出版部	〒194 東京都町田市玉川学園6-1-1 TEL.0427-28-3213 FAX.0427-28-3218
中央大学出版部	〒190-03 東京都八王子市東中野742-1 TEL.0426-74-2351 FAX.0426-74-2354
東海大学出版会	〒160 東京都新宿区新宿3-27-4 新宿東海ビル TEL.03-356-1541 FAX.03-380-6136
東京大学出版会	〒113 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学構内 TEL.03-811-8814 FAX.03-812-6958
東京電機大学出版局	〒101 東京都千代田区神田錦町2-2 TEL.03-294-1551
東京農業大学出版会	〒156 東京都世田谷区桜丘1-1-1 TEL.03-420-2131 FAX.03-706-8851(総務課)
東京理科大学出版会	〒162 東京都新宿区神楽坂1-3 TEL.03-260-4271 FAX.03-260-4294
法政大学出版局	〒102 東京都千代田区富士見町2-17-1 TEL.03-237-1731 FAX.03-237-8899
明星大学出版部	〒102 東京都千代田区飯田橋4-1-11 信濃ビル TEL.03-239-3436 FAX.03-263-5754
早稲田大学出版部	〒160 東京都新宿区戸塚町1-103 TEL.03-203-1551
名古屋大学出版会	〒464 名古屋市千種区不老町1 名古屋大学構内 TEL.052-781-5027
関西大学出版部	〒564 吹田市山手町3-3-35 関西大学会館 TEL.06-388-1121
九州大学出版会	〒812 福岡市東区箱崎7-1-146 九州大学構内 TEL.092-641-0515